



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

10月26日号（285号）

編集／販売総本部ブランドプロモーショングループ

ヒロシマの日常を撮る

26日(日)=1、3面

8月6日、広島。平和記念公園に写真家の土田ヒロミさん（85）Ⅱ写真Ⅱの姿がありました。カメラを向ける先は、式典など「大手メディアがいつも報道する」光景ではありません。「あらゆる光景」、なかでも祈りを捧げる普通の人々です。被写体をいきなり撮影、なんてことはしません。じっくりとその状況を見極め、自身もその場に溶け込んでからシャッターを切ります。これが土田さんのスタイルです。

これまで被爆者や被爆した遺留品、街の光景などを取材してきましたが、一貫したテーマは「見えないヒロシマ」でした。被爆者の日常を客観的に切り取り、被爆した遺留品も特設アングルをつけて悲劇性を強調することもしません。日常を浮き上がらせるほうが、後世の人たちに伝わりやすいと考えたためです。さらに今夏、被爆者たちへの取材を改めて試みましたが、多くが亡くなり、連絡が取れた人はわずかでした。戦後80年。土田さんが伝えたいメッセージとは――。



タブレット配布無償化見直し

26日(日)=総合面



これまで無償で貸与されてきた公立高校の生徒が使うタブレット端末。各家庭に購入を求めるなど「保護者負担」とする動きが全国で広がっています。

端末Ⅱ写真Ⅱは、鉛筆やノートと同じ「マストアイテム」（必需品）で、全員が持つ環境は令和時代の学校の「スタンダード」とされるものの、購入には数万円が必要となります。自治体の事情や方針転換に至る背景を探りました。



外国人バッシング なぜ？

26日(日)Ⅱくらしナビ面

生活保護を利用して している「つくろい東京 いる人や、外国人に 対 「生活保護と外国人」 するバッシングがありま す。なぜそんなことを するのでしょいか。

生活困窮者の支援を 真Ⅱに聞きました。

特集ワイド

日刊ゲンダイ 50年

27日(月)=タ刊2面



タ刊紙「日刊ゲンダイ」 が27日で創刊50年の節目を 迎えます。

どぎつい見出しが目を引 くタブロイド紙は、政治家 も大企業もバツサバサ。芸 能、文化、エロまで硬軟自 在です。「ウチはエモー ショナル（感情的）な新聞 です」という寺田俊治社長 Ⅱ写真Ⅱらは、デジタルよ りも紙、という信念の持ち 主でもあります。東京都内 の編集局で、半世紀の足取 りとこれからを尋ねました。